

第2回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会

日 時 平成29年7月25日(火) 午後6時00分～午後7時30分

場 所 第二庁舎6階 601会議室

出席委員 8人

委員長 渡 邊 嘉二郎 委員

副委員長 小 川 順 弘 委員

委 員 鴨 下 明 子 委員 橋 田 壤 志 委員

松 本 敏 朗 委員 本 間 紀 行 委員

沼 崎 明 大 委員 天 野 建 司 委員

欠席委員 1人

委 員 小 宮 貴 大 委員

市長 西 岡 真一郎

事務局職員

企画政策課長 三 浦 真

企画政策課企画政策係長 古 賀 誠

企画政策課主査 三 島 雄 介

企画政策課企画政策係主事 齋 藤 彬 子

傍 聴 者 1人

(午後6時00分開会)

◎渡邊委員長 第2回的小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を開催したいと思います。

本日は、市長さんに来ていただきまして、市長懇談という第1番目の議題、それから、前回までやってきた「小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」施策の効果検証についてと、それから次回委員会の開催日について、その他という議題で進めたいと思います。

今日は最初に、皆さんから、この会に参加した感想や、あるいは小金井市はどうしたらもっとよくなるのというご意見があるかと思うので、その辺を大体1人3分くらいをめぐりにお話しただいて、あと、三、四分かけて、その話題について討論するという形式で始められればと思っています。

初めに、せっかく市長さんがお見えになりましたので、ご挨拶をいただければと思います。

◎西岡市長 皆さん、こんばんは。小金井市長の西岡真一郎でございます。本日は、先ほどちょっと激しい雷や雨模様でございましたが、お足元の悪い中、またお暑い中、そして大変お忙しいところ、本委員会にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

また、委員の皆様方におかれましては、かねてより「小金井市人口ビジョン」、「小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進にご尽力をいただき、感謝を申し上げます。ありがとうございます。

私も、小金井の市長に就任させていただきまして、1年半が経過したところでございます。日々、本当にたくさんの、さまざまな市政にある課題に直面し、その対応をし、乗り越え、小金井市の未来を作っていくように全力を挙げているところでございます。

本日は、議事の中で、小金井市の中長期にかかる諸課題などについて、懇談形式によりご意見、ご提案をいただければと考えております。ぜひ忌憚のないご意見、場合によってはご質問もあろうかと思っております。こういう問題について私はどういう考えでいるのかでありますとか、さまざまなことにつきまして、時間のある限り、皆様方のお声をいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

また、事務局からの報告によりますと、委員の皆様はさまざまな立場の方にご参加いただいておりますので、ぜひさまざまな角度、また皆様方の専門分野などからも、有意義な議論になるのではないかと、とても楽しみにして参りました。

さて、まち・ひと・しごと創生総合戦略は、人口減少に歯留めをかけるとともに、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくことを目指すものとされております。小金井市の人口について申し上げますと、最新の数字ですが、平成29年7月1日現在は、11万9,893名となりまして、あと107名で12万人を初めて突破するという状況であり、微増傾向が続いております。今週末、土曜日、日曜日に開催された阿波おどりも大変盛況でございました。

しかし、3つのパターンによる人口推計では、数年後には人口のピークを迎え、その後は減少に転じることが避けられない状況となっております。今後は、少子高齢化が進展する中であっても、市民の生活を守り、安定、発展させることを最優先に、人と人とのきずなを生かしたまちづくりを進め、持続可能な小金井市としていくことが重要になります。小金井市というまちは、潜在力も高く、市民力、地域力も高く、小金井市が持っているすばらしい財産がたくさんございます。私は、小金井市というまちには大きな可能性を感じているからこそ、今、日々、尽力をしているところでございます。

本市では、平成28年3月に渡邊委員長をはじめ多くの方のご協力のもと、「小金井市人口ビジョン」、「小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたしました。策定した計画は実行されないと効果がありません。また、実行における効果の確認と修正を行いながら、継続的に取り組む必要があります。まさに推進委員の皆様お一人お一人に、本市のPDCAサイクルに基づく施策の検証にお力添えをいただき、幅広い世代、立場からのご意見をいただき、2020年から2050年までを期間と位置づける本市のグランドデザインを策定するための参考にもさせていただきたいと考えております。皆様には、日ごろ感じることなど、率直な意見を出していただき、小金井市の未来へ向けての闊達なご議論を期待申し上げて、冒頭の挨拶

とさせていただきます。

本日は、忌憚のないご意見をいただき、次回の会議においても意見交換ができればと考えております。

今日は、どうぞよろしくお願いいいたします。

◎渡邊委員長 市長、ありがとうございました。

それでは、先ほど言いましたように、大体3分以内程度で、考えとか感想とか、何でも結構だと思いますけれども、発言していただいて、その後で討論をさせていただければと思います。

順番ですけれども、レディーファーストじゃないんですけれども、鴨下さんのほうから考えを教えていただければと思います。

◎鴨下委員 第1回は仕事の都合で出席できなくて、ご迷惑をおかけいたしました。失礼いたしました。1年ぶりに、また参加しているんですけれども、とても貴重な機会というか、小金井には生まれてずっと住んでいるんですけれども、まちの仕組み、市の仕組みというのを、まず知ることができたというところから、何かできることがあればなどは思っていますが、今回、意見させていただいたことというのが、まさに私かなと思っているんですね。

何かというと、住んではいるし、すごく好きだけれども、別にそれでいいと。何かイベントがあれば行くけれども、どうぞやってくださいと他人事と考えている人と、もっと本当に、こういうふうはこのまちをもっと盛り上げていきたいと思っている人とのギャップがすごくもったいないのかなと自分自身も思っております。できることがあるかどうかわかりませんが、参加している限りは努めさせていただきたいと思っております。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

今、鴨下さんから、この会議に参加して、いろいろ学ばせていただいたという意見と、あと、言い方が適切かどうかわかりませんが、やっぱりいろいろなイベントに積極的に参加される方と、あまり参加されないと言ったらいいですか、見ている方がいらっしやると。ここがうまくコラボレーションすると、もっといいまちになるのではないかと、というご意見だったと思うんですけれども、いかがですか、そういうご意見に対して、何か自分はこう思うとかというのは。

私も、勤務先が法政大学ということで、25歳から50歳ちょっと前まで、あまり市と関係なくて、ここに住んでいたんですけれども、全然我が家から大学に車で通うだけで、だから、いまだに、あまり飲み屋さんもよく知らないんですけれども、あるときに、市のほうから、社会教育か何かの件でやってくれないかと頼まれて、それから、皆さんとのおつき合いが始まったというのが正直なところです。要するに、住んでいる場所であり、寝ている場所であり、あるいは職場の場所だったんですけれども、あまり人のかかわりは持てなかった。持てるようになったのは、ちょっとしたそういうきっかけで、市のほうからお声がけをしてもらったということが一つのチャンスだったと。僕にとっては、今考えてみると、非常にありがたいチャンスをいただいたのかなという感じがいたしました。

小川先生はいかがでしょうか。

◎**小川委員** 今、鴨下委員からお話があったんですけれども、確かにそうなんだろうなということを思いました。大事なのは、住んでいる人もそうなんですけれども、住んでいる人は、仕事で外に行ってしまう。逆に、昼間、小金井で仕事をしている人をいかに取り込んでいくかということが大事だろうなと思っています。私は、子ども・子育て会議とか、市の防災委員会とかにかかわらせていただいているんですけれども、市の防災のことを考えると、もし昼間に起こったとしたら、働いている方たちが我が家に戻ってくるということよりも、ここで働いている方たちが、いかに地域とかかわって、防災というか、災害に対応していくかということがすごく重要だろうなと思っています。実際に、町会などで動いている方は、年齢的にはもうかなり上の方たちなんですね。そういう方たちに頼るのではなくて、若い、働いている方たちをいかに取り込んでいくかということが大事だろうなとすごく思っています。

そのためにも、あとで、ここにもあるんですけれども、小金井での会社、一般企業などがどんなことをやっているかということ、例えば就職には関係なくても、企業説明みたいなことを大学に行ったりとか、中学校に行ったり、高校に行ったりとかしてPRしていくということがすごく大事なんじゃないかなと思っています。そういう連携を図っていくということ。

それから、防災のことで言えば、小金井はものすごく安全な場所として、小金井公園とか武蔵野公園とかがあるわけなので、そこをいかに有効活用していくかということが大事じゃないのかなという気がしております。

◎**渡邊委員長** いろいろなイベントに参加される人と参加されていない人の乖離感というのを、例えば防災というのをキーワードにして、今、住まれている方が、もう少し積極的にやることによって、鴨下さんが言われるような懸念と言ったらいいんですか、に込えられるんじゃないかなというご意見ととってよろしいですか。

ありがとうございます。ほかに、鴨下さんが言われるようなご意見について、何かコメントとか思いがあれば、いただければと思います。

あとでまた回るとして、橋田さん、何かご意見がございましたら。

◎**橋田委員** 私は小金井市に住んで2年ぐらいなので、ほとんどほかのところで過ごしてきてはいるんですけれども、2年間の率直な感想は、すごく住みやすいまちだと思って、特に不満もなく過ごしています。

逆に、この委員会、こういうのも初めて参加するんですけれども、参加して、いつも話し合うことが、正直、自分には大き過ぎる課題というか、あまり身近じゃないようなことが多いかなと思っていて、ちょっと気づいたところだと、うちの近所が、児童とかがよく通るのに歩道が狭いとか、そういったところの問題点のほうが、どちらかという気にかかっていたり、あと、この意見にもありますとおり、国際交流事業の参加人数というのも、近くの飲み屋さんとかに行くと、結構外国人の方が来ていて、来てから、そんなに日数がたっていないか、日本語を学びたい、日本文化を学びたいという人と、僕も英語をほとんどしゃべれないんです

けれども、会話をしていく中で、そこは結構外国人の方がたくさん来るような場所なんですけれども、こういう場がもっと増えたらいいなというのを聞いたりしているので、何かそういうところをもうちょっと、市がどこまでかかわれるかはわからないんですけども、そういう場を提供するだけでも、外国人の方とかはありがたいと。僕らも、かかわりたいという人が結構いると思うので、こういう場がありますよという場を提供するだけでも、かなり貢献できるんじゃないかと思っています。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。地についての国際交流都市みたいな。

◎橋田委員 そうですね。

◎渡邊委員長 要するに、外国人の人とまちの中で触れ合って、一緒に飲んだり、食べたり何かいろいろして、そういう場みたいなものがあるって、そこで血となり肉となるような国際交流をやりたいということなのかなと思ったんですけども。橋田さんのご意見について、何か思われること等はございませんか。松本さん、いかがですか。

◎松本委員 国際交流ですか。なかなか難しいテーマですけどね。でも、地域によって、結構、人種的にというか、国籍的に偏ったところがあったりと言われているんですけども、ここでは、まだそういうところまでの話はないですね。ちらちら見かけるのは見かけますけれども、異国の言葉を聞いたり何かはしますけれども、まだそういうところまでは進んでいない。これが進んでいって、例えば埼玉とか、向こうの上のほうに行ったら、何とかの人が集まっているとか、エジプト人が集まっているとか、いろいろ言い始めたときに何が起こるかというのがありますよね。

小金井市というのは住みやすいまちなので、そういうふうになったときに耐えることができるかどうかというのは、懸念材料のほうが今は多いのではないのでしょうか。だから、うまく触れ合うというか、お互いを理解し合えるような環境といった何らかの手当をあわせて考えていきながら、今のような、変に小金井だからというところに閉じこもらないで、視野を広げていくようなことをやっていくのが、当面の必要なことではないかなという気はしますけれども。

◎渡邊委員長 本間さん、不動産業をやっていて、外国人の方のアパートとか何かの紹介があるんじゃないですか。

◎本間委員 そうですね、多いですね。やはり大学に留学生の学生さんも多くいらっしゃいますし、外国人の若い方というのは非常に多いと思います。前の会議のときに統計が出ていましたけれども、周辺他市と比べて、ずば抜けて多いかというところ、そういうわけではありませんけれども、それなりにいますので、そういう外国人の方に、やっぱりしっかりと愛着を持ってもらえるようにしていくべきだと思います。

◎渡邊委員長 逆に、アパートのオーナーさんからクレームが来るとか、そういうのはないですか。

◎本間委員 あまりないですね。わりと、以前と比べると、いろいろ学んで日本に来ている、あるいは留学に来ている。まちのことも、いろいろインターネットだとか、そういったもので

情報を仕入れていらっしゃる傾向が強いのと思いますね。ですから、わりと溶け込んで、人間関係を大事にしている傾向は、以前よりかは強いかなという気はしています。

◎渡邊委員長 本間さんが業を通して国際交流をやっているということですね。

◎本間委員 そうですね。多少なりとも。

◎松本委員 年齢的とか、あるいは、そういった学生であるとか、結構、限定的なんですか。それとも、幅広くばらけている感じですか。

◎本間委員 そうですね。20後半、30ぐらいの方も中にはいらっしゃいます。

◎松本委員 それは仕事をしながらということですか。

◎本間委員 そうですね。大学院とかが多いと思いますけれども、年齢は、特に20代前半とは限らないので。先日も、阿波おどりがありましたけれども、結構、そういうものをみんな楽しみに見に来ての方が多いですから、少しでも、そういう方に、目で見てわかるのはわかるんでしょうけれども、そういうよさをもっと伝えられる方法があつたらいいのになとは思いますが。

◎松本委員 外国で問題になっている宗教的な問題とかというのはあるんですか。

◎本間委員 あまり、仕事上は、そういったことがトラブルになることというのは、ほとんどないですね。生活習慣の違いは若干あると思いますけれども。

◎松本委員 例えばごみの分別ですとかね。

◎本間委員 ごみの分別という習慣がないので。

◎渡邊委員長 ほかに何かご意見はございますでしょうか。

せっかくだから、本間さんみたいな仕事をやっている人も、活躍してもらいたいかもしれないですね。

一応、意見をいただいている沼崎さんのほうからは、起業とか、そういうお話を伺っていると思いますけれども、沼崎さんからもご意見をお願いできますか。

◎沼崎委員 私は職業柄、産業寄りの意見になってしまっているというところがあるんですけども、今も継続してやっていただいているのはいるんですが、創業ニーズの掘り起こしというところは、やはり継続的に続けてほしいなと思っていますところです。市民力が高い地域だと思っていますので、まさに地域の課題をビジネスの手法で解決していくような社会起業家の方が生まれやすい環境かと思っていますので、こういった掘り起こしは、ぜひ継続的にやっていただきたいと思っています。また、働き方改革というところで、今、新聞等でも、テレワークとかが叫ばれてはいますが、実際問題、導入を検討している企業自体は、多分まだ少ないという状況ではあるかと思っています。今後を考えていくと、テレワークは今よりも普及していくかと思っていますので、検討の余地はあるのかなと思っています。

あと、その他というところで、やはり自治体単独での取組というのは、先ほどのイベントの情報発信の部分もそうなんですけれども、どうしても予算の面とか、発信力の面で効果が限定されてしまう部分があると思いますので、近隣自治体との連携だとかというのは、今後ぜ

ひ力を入れて取り組んでいただきたいなというところが、私からの意見になります。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

沼崎さんのご発言に対して、何かご意見とかございますか。

◎鴨下委員 確かに今、自治体単独だけのところをおっしゃってくださったんですけども、本当にそうだなと思って。周りの市や、ほかの企業さんとかと一緒に何かできることがあれば、協力していければ、もっといい。何なら小金井市だけじゃなくて、東京都、日本というところにつながっていくといいのかなと思います。

◎沼崎委員 実際、私は国分寺に住んでいますけれども、こういう職業柄なので、地域の情報はよく耳にしていますけれども、小金井市の情報って、あまり入ってこないというところが実情なんです。近くにいたので、いい情報があれば、当然行きたいんですけども、なかなか隣町まででも、あまり届いていない状況だと思うので、もったいないかなとは思っています。

◎渡邊委員長 小金井にふさわしい産業とか起業テーマって、何だと思われませんか。

◎沼崎委員 昨年度、市役所と連携して教育的特性調査事業というのをやったんですけども、やはり産業の特化係数というのを調べてみると、教育産業というのが突出しているまちではあるんですね。教育産業の集積というのは、将来的に目指してみてもいい路線なのかなというふうには思っています。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。後で私が発言しようと思ったことのお話をさせていただいたという感じで。

ほかに何か、せつかくですから。また一回りして、ゆっくり話してもよろしいかと思うんですけども。

小川さん、先ほどちょっと話されたんですけども、広域の大規模災害における避難所の問題、地域ということで、もう少し掘り下げてお話いただけますか。

◎小川委員 正確に言うと、例えば武蔵野公園などは、小金井の地域にはあるけれども、事務所が調布になっていたりとかということで、100%小金井のものではないとなっているんですけども、そういうことを含めて、近隣の市との連携で、あそこに大規模な避難所ができるような形のものを考えていくというのが、すごく大事なんだろうなと思っています。今、いろいろなところに防災の倉庫とかがありますけれども、もっと規模が大きなものが、小金井公園とか、ああいう公園にあっているのかなというのはすごく感じています。

先ほど沼崎委員がおっしゃっていた広域的な連携の取組というところなんですけれども、この辺はどういうふうになっているのか、よくわかっていないんですが、今、国分寺、府中、小金井の市長さんが市内を回ってJ:COMでやっているんですけども、あれはもっと市民の人たちが目にできるような方法というのではないのでしょうか。いろいろな意味で、かなり発信力はあるなと思っているんですね。先ほどの外国人の方の件なんかもそうなんですけれども、例えば農工大に来ている、つい最近も、府中の市長さんも、それから小金井市長さんも、農工大を回っていましたけれども、その中で、やっぱり外国人の方のことなども出ていますので、

そういうところでまた発信していくのが大事かなと。

外国人の方のことで言うと、小金井には、ある種の傾向があるのかなと思っています。いわゆる自動車工場や、何かの工場があって、外国人の方が多いというのではなくて、先ほどもおっしゃっていましたが、農工大ですとか、いろいろな大学関係、留学生、国費留学で来ている人とかが、傾向として結構多いんですね。ですから、そういう方たちが小学校とか中学校とかに何らかの形で異文化交流ということで入っていくことができればいいなど。実際にやっている小学校などもありますから、逆に言うと、外国人の方がいらっしゃるの、保護者としておいでいただくという。PTAの活動などでも、できたりするので、そういうような連携というのは、いろいろな形でできるだろうなど。

◎**渡邊委員長** 防災という観点では、松本さんが、安心、安全ということを書かれております。要するに、突然、思わないようなことも起きる。それに準備しておかなきゃいけないということと、それから、快適さという2つの観点からご意見をまとめられていると思うんですが、お願いできますか。

◎**松本委員** 実家が鳥取県の米子にありまして、17年前の地震で家がつぶれたんですね。昔風の家ですから、柱が折れ曲がり、もう住めなくなったので、全部取り壊したのですが、そのときに実家に行って、掘っ建て小屋的なところで何日間か暮らしました。東北大震災のときには帰宅難民になって大変な思いをしました。今や、地球規模的にいろんな災害が起こり得る可能性が高いと言われてます。幸い、小金井市は地形的にはいいところに立地しているようで、そういう面では恵まれているんですけども、恵まれているがゆえに何かあるかわからないということに、ある程度は思いを致しておいたほうがいいのではないかなと思います。

いずれ周りがみんな老人ばかりになって、そんな老人で何ができるのかという思いもありまして、何かあったときには、何をどうすれば緊急の対応ができるとかということ、少しみんなの頭に入れておく、危機に備えて何らかの手立てを平時にやっていくのがいいのではないかなというのがここに書かせていただいたことです。

◎**渡邊委員長** 快適のほうはいかがでしょうか。

◎**松本委員** 小金井市は非常に快適な環境にあるんだと思うんですけども、快適なるがゆえに、変えなくてもいいんだという雰囲気を感じられます。我々老人としては、のんびりと快適であればそれはそれでいいんですけども、若い人たちにとっては果たしてどうかと思います。空気が汚れたり、騒音が大きくなったりということはあまりないほうがいいなと思いつつ、片一方で、12万のまちをどうするんだという話がありますから、経済的に成り立つために、何か考えられることがあるとすれば、ぜひ調和を図りながら進めていただきたいなという思いです。

◎**渡邊委員長** ありがとうございます。確かに最近の災害ですか、ニュースなんかを見ていると、70歳、80歳のおばあちゃんが、「私、今までこんなこと初めてです」というのがよく映像に出てきますね。つまり想定外のことが、結構、あちこちで起きているということが現実

だと思うんですね。小金井も大丈夫かといったら、まさに今まで我々が思いもつかないような何かが起きるかもしれない。そういうことに対して物的にどこまでできるかは別としても、少なくともコミュニティーづくりとか、そういう意味で大災害に耐え得る市民の住む場所といったらいいですか、何かそういう想定外のことが起きたときに、すごいね、小金井は、ちゃんと助け合っているんだ、ということが目に見えるような、何かそういうものを今のうちから作っておけばというのは、非常に意味あることかなと、僕も常々思っているんですけども、皆さん、いかがですか、そういうことで。

◎松本委員 もう一点は人の問題ですよ。今は何が起こるかわからないといった報道が多いじゃないですか。それに加えてテロの問題もあって、なかなか今までどおり、平和な安心の世界がそのまま維持できるかどうかというのは、疑問なしとしないということにも、ある程度、思い致さないといけないのかなという気持ちはありますね。

◎渡邊委員長 本間さん、いかがですか。特に本間さんに発言してもらわなきゃ。提案は辞退されているから。

◎本間委員 すいません、ちょっと間に合わなくて、申し訳ありません。

◎渡邊委員長 今のこの大災害とか何かに対して、特に不動産などをやられていると、いろいろそういうことは、我々以上に敏感じゃないかなと思うんですね。

◎本間委員 そうですね。やっぱり住まいを構える方は、気にされる方が非常に多いですから。

ただ、小金井って、私もそういう説明をしてしまっているんですが、比較的安全だと言い切っちゃいけないんですけども、何があるかわかりませんから。ただ、武蔵野台地にあって洪水も少ない。山とか大きな河川があるわけでもなく、今までも、そういう災害が比較的少ないということと、また、そういう認識で小金井の地を選ぶ方もいるので、あまり根詰めて考えたことはないんですけども、やはり何かあったときの避難場所とか、そういったものというのは、不動産のコンプライアンスとしても説明することが求められてきているので、お客様が安心できるような発信をしながら、また、居を構えるときに、そういう説明ができるようにしていきたいと思うので、力を入れていただかないといけないと思いますし、近くには立川断層もありますから、どんなことがあるかわかりませんから、そういうことをしっかりと伝えるような仕事をしたいですし、ご協力をいただければと思っています。

◎渡邊委員長 遠く神戸だったかな、大震災のときに結構家が倒壊して、地域の人たちが、おばあちゃんは家のこの辺にいつも寝ているという情報がわかっていて、その辺を集中的に搜索して助けたという話があって、倒れるものは倒れるのでしようがないと思うんですね。だから、そういうことが起きたときに、コミュニティー、市民同士のつながりみたいなものがすごく密で、あそこのうちはこういう生活をしているという、そこも、どこまで入り込めるかはちょっとわからないんですけども、でも、そういう仲のいいコミュニティーがあると、災害のときに強いのかなとすごく思うんですね。

今度は私ですね。私は文章を書けというと、すぐ長くなってしまいます。先ほど市長さんが、小

金井市には潜在力があると言われました。沼崎さんは、小金井にふさわしい産業というのは教育じゃないかということをおっしゃって、まさに僕が言いたいことの前振りをしていただいて、ありがたいという感じがしたんですけれども、非常に象徴的に言うと、これは去年の会議でも言ったような気がするんですけれども、小金井市の学園都市宣言みたいなことを打ち上げて、小金井は学園都市ですよ。産業という意味でも、子どもたちの教育という意味でも、小金井は教育にもものすごく力を入れている地域ですよということをおっしゃったらどうかなというのが私の提案です。

今、テレビで話題になっているいわゆる加計学園の問題もあります。今治市からしてみると、本当にあの学部が欲しいんだと思うんです。私は岩手県出身なんですけれども、私の市には大学がないんです。教育長が言っていたんですけれども、とにかく大学が欲しいと。大学がそこにあれば、若い人がそこ来るとともに、そこで定着してくれるという意味で大学が欲しいんだということをおっしゃっているんですね。

市長さんが言われたみたいに、小金井には潜在力があると。この話で言うと、学芸大があって、農工大があって、法政大学があって、専門学校があると。すぐそばには亜細亜大学があって、東経大がありまして、いろいろな大学があるんですね。これは地方の視点から言うと、こんな贅沢なエリアはないと絶対言うと思うんですね。八王子に行くと、また二十何大学というすさまじく、大学がいっぱいあるんですね。僕は八王子よりは小金井のほうが、いわゆる大学連携とか、いろいろなことをやるには適正な規模かなと思っているんです。二十数大学を取りまとめるというのは容易なことじゃない。それがきちんと取りまとまったらすごいことにはなると思うんですけれども、でも、小金井の場合には、幸いというのか、3つの大学と専門学校、これは非常にコミュニケーションがとりやすいんですね。僕は、この3つの大学の特性を生かして、何か小金井市全体が大学のキャンパスであるとともに、市民にとって各大学のキャンパスに自由に入って、図書館も利用できたり、いろいろなことができるんだという大学。そして、何より一番重要だと僕が思うのは、子どもたちの教育のレベルをもっと上げたい。今もかなりいいところに行っていると思うんですけれども、やっぱり大学学園都市宣言みたいなことをやって、小金井は非常に教育に力を入れているんだということになると、それによって子どもたちがもっと勉強しようという気になるかもしれないし、そのために大学も協力すると。そういうことでやられたらどうかなと。

ちょっと私は知らなかったんですけれども、小金井市には国立大学、学芸大とか農工大と連携推進に関する協定というのを結ばれているんですね。法政大学も遅まきながら、今連携を始める準備をやっているということですね。これ、ただ形を作っても、そこに魂を入れないと動かないだろうと思うんです。今日の評価の一番最後に学芸大の連携のやつで、なかなかうまくいっていないという評価がございましたけれども、形はあるけれども動く人がいない、母体がないということで、これは、皆さんご存じだと思うんですけれども、「青少年のための科学の祭典」というのが市民を中心に大学を巻き込んでやっているんですね。これは、形がないんで

すよ。形はないけれども魂があると言ったらいいんですか、とにかく動いているんですね。こういうのが単発のアクティビティーじゃなくて、組織的なアクティビティーとして形を作ってもらおうとすごくいいのかなということで、ちょっと長ったらしいこんな文章を書いたんですけども、これはぜひ取り組んでいただきたい。

16年前の長期計画審議会の委員をやらされたことがあって、16年前ですか、17年前くらいになると思うんですけども、今、後期の2年目ぐらいに入っていますが、その前の前に。あのときに新規産業という項目がひっかかったんですね。そんなことはないよといって無理やり入れてもらったんですけども。あれから小金井の産業って何だろうとずっと考えてきているんですけどね。いろいろ考えて、結局は教育かなと言われるみたいにそこに思い至って。教育と産業というと、何か違うだろうと言う人がいるかもしれないんですけども、紛れもなく教育は産業の一環だと思っています。

そういう視点で、ぜひ、象徴的には小金井市学園都市構想宣言みたいなのをやってもらって、そこで何をやるのというのは、これからみんなで議論すればいいかなと思っているんですけども、そんなことを提案することによって、小金井市がもっと魅力的になって、あそこは文教地域だから、東京都のどこかに住むというのなら小金井だということで、みんな小金井に集まってくると。人口問題の予測に反して、かなり増えていくかもしれないと思いますし、そんなことを提案したいと思っています。

今は委員として発言しましたがけれども、委員長として、いかがでしょうか、こんなアイデアに対してご意見があれば。鴨下さん、いかがですか。

◎鴨下委員 いいですねと思って聞いていました。

◎渡邊委員長 小川先生はいかがですか。

◎小川委員 大学との連携ということでは、いいなというふうに思います。明星大学が地域とのかかわりの中で、ニュータウンの空き室に学生を入れて、地域との交流を図っているというのを今やっていますよね。それと同じように、小金井なども結構今、空き家があるじゃないですか。そこを学生が下宿というか、学生が住むような形、住める形にしたりすると、結構いろんな意味で広がりが出てくるんじゃないのかということは考えていました。空き室対策にもなりますし、学生が定着していくということにもつながってくるんじゃないのかと思っていました。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。そのところでビジネスが創生できると、学生さんを中心とした新たなビジネスが作れるなんていうと、結構おもしろいですよね。

◎渡邊委員長 本間さんはいかがでしょう。

◎本間委員 そうですね、私の仕事の関係で、不動産の組合でも空き家対策というのは取り組んでいて、今まさにその最中ですけども、小金井市の担当の方と提携を結ぶという作業で進ませていただいているさなかではありますので、力を入れていくところではあります。

それとはまたちょっと別に、先行してなんですけれども、私のところではやはり空き家がお客様のほうでありまして、二世帯住宅で、二世帯で住んでいたんですけれども、親世帯がお二人とも亡くなってしまって空き家になってしまったということで、そこには住みたいけど、半分は空いている。そこに学生さんに入ってもらって、いわゆるシェアハウスという形で住んでいただいているというおうちが何軒かあります。これもいろいろ検討を重ねて、学芸大学のご協力をいただいて、教授の方といろいろ協議をして、そのオーナーさんともお話をし、ゼミの学生さん4人に入ってもらって、大きな家で、半分空いているといっても3LDKあるんです。LDKが18畳ぐらいあるので、そこにまた1部屋作って4人で住んでもらう。民泊と一緒にやってはいけませんから、いろいろ対策も考えて、4人に住んでいただくと、そういうのはあるんです。

その場所が貫井北町という場所で、比較的空き家の多い場所なんですね。空いているところに入るというのもメリットですし、半分の所帯が、まだ働いている方でリタイアまでまだ5年、10年あるんですけれども、空き家になっていて物騒じゃ困るというので、その住人になってもらうということで家を守るということ。それから、周りも高齢の方が多いので、あんまり外に出てきて掃除とかすることがなくなってきた、子どもの姿がなくなってきた、界限は住宅地なんですけれども。そこにみんなで挨拶して回ろうという、まちに少しでも活気をとというようなことも、契約のルールではないんですが、こういうことを取り組もうねということを実は盛り込みながら入ってもらっている案件があります。

それがまたうまくいってまして、隣近所、なかなか挨拶も少なくなってきた高齢者の方々同士でも、こういう若い子がいるんだ、声かけてくれるんだといって会話が少し増えてきたというのがありますし、その半分空いている家は傷まずに、若い人がちゃんときれいにやってくれるので維持できていますし、オーナーさんにとっては、わずかだけでも家賃も入るし、学生は安い家賃で住めるしということで、非常に、両得じゃなくて、得なことが多い成果に結びついた事案があって、それが今3件ほどあるんですけれども、そういうのでできることはやっていきたいと思って、先行していろいろ行っています。

なので、これからもっと小金井市の方に協力いただいて、空き家はまだまだたくさんありますから、そういう取組ができればいいなと思っています。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。何かこの件、この議題は7時までであと15分ありますので、いろいろ話していただいて。今まで結構現実的な観点から話したと思うんですけれども、2050年、ほぼ30年、未来における小金井ということで、そういうことをイメージして、こんなことをやったらいいということはございませんか。

僕から言わせてもらおうと、先ほど小金井市の学園都市宣言をやると。やっぱり30年後には小金井出身の人がノーベル賞をもらう。それだけのポテンシャルを持った教育をしているんだと。もちろんいろんな大学に行かれると思うんですよ、東大とか京大、いろんなところに行くと思うんですけれども、その人は少年時代、少女時代に小金井で過ごして、そのことがよかつ

たんだ、だからノーベル賞をもらえたんだという、そんな感じになるとすごくいいなという感じがするんですね。それは夢ではなくて、現実に取り組むんだということですね、結局ね。

何かそういう、はい。

◎本間委員 主に4つの大学に、まだほかにもあれなんですけれども、基本的に学芸大学、法政大学、東京経済大学、農工大学が中心に近いところであって、わりと広さの中に大学が集約されている、そういう特徴があるまちでありながら、それを生かし切れていないというのが非常にあるんですね。なので、先ほど渡邊先生がおっしゃったような、もっと協働していかないといけないところもあるし、それをまた、教育のそういうものを、大学があるよというのをシティブロモーションと結びつけていくのかわかりませんが、もっとこれをPRしていかないといけない。

単純に、学芸大学を目指しているから来るとかという感じではなくて、小金井に来れば、もちろん大学はどこに行きたいと決まって大学に行くわけなんですけれども、やはり教育が進んでいるまちなんだという印象をもっとつけていいんじゃないかと思うんですね。口で言うのは簡単で、それをどういうふうにしていくというのはなかなか難しいんですけれども、そういった意味では、大学の協働、こういう活動をしているよというのをやっていくことが大事だと思うので、我々もこういう仕事をしていて、やっぱり学生さんとかも相手にするほうが非常に仕事もしやすくなりますし、ぜひもっともっと発展させていくというか、進歩させていけるように、教育というものを、大学があるという部分で。

◎渡邊委員長 今言った4大学の学生さんによるシェアハウスはおもしろいかもしれない。

◎松本委員 若干ネガティブなポイントとして、今30年後とおっしゃっているんですけれども、5年先ですらほとんどわからないような時代に入りつつあります。自分自身のことを振り返って見ても10年前と今は全然違う世界になったなと感じます。今後更に変化は加速するでしょう。今おっしゃっている大学ですけれども、果たして時代の変化に堪え得る大学なのかどうかということをしっかりと考えておかなきゃいけないんじゃないかと思います。

学問体系も大きく変わりつつありますね。NHK学園というのは何年見ても同じようなことを繰り返してやっていますけれども、それで学園都市っていうのはあり得ないですよ。これからどういうふうな世の中になっていって、それにどういうふうに向き合っていくのかを考える大学、あるいは世の中を引っ張っていけるような大学になるということが大事なことだと思うんですけれども。

◎渡邊委員長 そうなんです。その意味でも、例えば市民のほうから突き上げがあるというんですか。例えば市民講座をやったときに、こんなの10年前に聞いたよということが仮に出たとしますね。学生さんは単位を取って卒業できればいいわけですから、やっぱりそういう生の教育と言ったらいいんですか、そういうことを学園都市構想の中でやっていくとかということ、学校自身の修行のためにもいいんじゃないかという気がするんです。

あとは、今、市民のためということを言ったんですけれども、大学にとってありがたいと思

うんです。学園都市宣言の地域に大学があるということが、例えばオープンキャンパスをやる
ときに、4つの大学が同時にオープンキャンパスできますよとか、そういうことをやると非常
に効率もよくなってくるんですね。大学も結構お客さん集めで大変なわけですから。

◎松本委員 オープンキャンパスというイメージは、学生と一緒にという意味なんですか。

◎渡邊委員長 いや、オープンキャンパスというのは、高校生に対して大学を紹介する。

◎松本委員 そういう意味なんですか。僕はもうちょっと、シニアとか、そういうものに開か
れたキャンパスかと思ったんですけども、違うんですか。

◎渡邊委員長 今の狭義の意味では、まさにPRですので。でも、広い意味では、いろんな方
が大学に来て、本当の大学を知ってもらって、お子さんとかお孫さんが、やっぱりあそこいい
からというのが本当の意味だと思うんですね。

◎沼崎委員 調布市が「映画のまち調布」という形でPRしています。去年、調布市と電通大
で連携して、「映画のまち調布」映画・映像技術シンポジウムを開催しました。地方創生の関
係で市内の産業を分析したときに、調布市は映像関連企業が多いということがわかりました。
電通大には映像関連分野について研究されている先生が何名かいらっしまったというところで、
そのニーズとシーズのマッチングをやって、市内産業を育成していこうというシンポジウムを
やって、幾つか事例が出てきています。このように「教育のまち小金井」というイメージで、
市内の大学の先生とかと、市内の教育関連事業者と、軽く雑談する会みたいなのが定期的にあ
ると、何か新しいアイデアも出てくるのかなということを感じます。

あと、瑞穂町に農芸高校があるんですけども、五日市の商工会と連携しています。五日市
はノラボウが特産品なので、ノラボウピザを開発しているようです。学生とコラボして商品開
発するだとか、そういった取組があるといいかなというところがあります。

あと、もし例えば「教育のまち小金井」というのをうたうときに、教育って基本学力なのか、
例えばプログラミングとか、先端的なことを学べるまちになるとか、ある意味そういう特徴が
あったほうが、それに関連した企業とかも、もしかしたら来るかもしれませんし、ビジョンを
考えるときには、曖昧な表現よりもテーマを少し絞ったほうが、外国語がすごく習得できるま
ちなのかとか、ある意味テーマがあったほうが、もっといいまちになるのかなと思います。

◎渡邊委員長 市長さんね、どこかのお偉いさん、ちょっと離れたけど、市内の中学校でプロ
グラム言語教育か何かの見学に来られた、どなたでしたっけ。

◎西岡市長 前原小学校に高市総務大臣が来たことですか。

◎渡邊委員長 そうですか。いや、海外の方。

◎西岡市長 いろんな方が来られているので。

◎渡邊委員長 そうですか。だから、そういう意味では、やっぱり小金井市の教育に注目が集
まっているんですね。

◎西岡市長 そうですね。プログラミング教育でいえば、前原小学校の松田先生が非常にご熱
心に取り組んでいるということは、さまざまなメディアに登場しています。

- ◎渡邊委員長 潜在力がある。あとは、誰かが突っ走ってまとめ上げるという感じですかね。
- ◎小川委員 あまり突っ走られてもねというところは、教育に対してはあるのではないのかなと思いますけれども。
- ◎渡邊委員長 だから、教育と産業ということを考えてときに、教育現場の方は意見を聞きながらやっていかないとけないということは、今日の評価の項目でも、学芸大との連携のことで、先生ですよ、研究テーマの対象としても困ると評価されて。
- ◎小川委員 はい、そうですね。国立大学が独立行政法人になってから、やはり研究成果を出さなきゃいけないという形になってきています。特に文系の大学においては、短期間に成果を上げるということはどんなことがあるのかということから、いろんな研究にかかわることが一般。例えば、小金井市の小学校とか中学校に調査研究、連携をしましょうという形で入ってきて、それが授業時間に影響を与えるということがあるのではないのかなと。
- ◎渡邊委員長 という懸念もあるということ。
- ◎小川委員 はい。大学の先生にしてみると、たかだかこのようなイベントは30分あればできますよとおっしゃるけれども、45分の授業を組んでいる小学校で30分でということは、1時間分の授業は潰れてしまうということ。そういう、いろんな細かいことがあるので、学校は教育課程というのを作って、それを市の教育委員会が認めて、来年1年間はこれでやりますよというのがあるんだけど、後からどんどんそれができてしまうと、なかなか難しいかなという課題があるかと思います。
- ◎渡邊委員長 そこは配慮が必要ですね。
- ◎小川委員 そうですね。
- ◎渡邊委員長 要するに、全てがいいということではないから。ひなたがあれば陰があるから、そこを総合的に考えながらやっていくと、そういうことだろうと思いますね。
- あと、二、三分ありますけれども、全体を通して、この会議に参加されて、何かご意見ありますか。天野さん、何か行政のほうから。
- ◎天野委員 皆さん、貴重な意見をいただきましてどうもありがとうございました。自分なんかも小金井市の強み、ストロングポイントは何かと考えたときに言っているのは、みどりと教育、それからポテンシャルの高い市民の方々というふうにもいつも言っていて、そういった部分では、今後、小金井の将来、未来を考える上では、そういったところを伸ばしていくというのはいいんだなと思いました。
- 教育産業というご意見もいただいています、そういったところも小金井の今後の産業という意味では重要なキーワードかなと思います。それから、やっぱり生かし切れていないというお言葉をいただきまして、これだけ豊かな小金井の資産、財産であります教育機関がありながら生かし切れていないというのは非常にもったいないと思います。今後、そういった資産をどういうふうを活用していくかというのはキーワードでございます。優秀な小金井の子どもたちがいますので、そういった子どもたちをどういうふうに関与してもらったり、ボランテ

ィアに参加してもらったり、また将来、小金井を担っていく子どもたちになっていただけるような行政をしていきたいと思ひます。

それから、あと、チャンスという意味ではいろいろ意見あるかもしれませんが、オリンピック・パラリンピックが東京で開かれますので、そういった機会を捉えて小金井をもっとPRできたらしと思ひますし、そういうときは貴重な財産である大学だとか、学生たちとも連携して、協力して、小金井を売り出していきたい。海外、外国人に対しても、おもてなしの心で迎えられたらと思ひます。ありがとうございました。

◎松本委員 せつかく市長さんがお見えになったのでお聞きしたいと思ひます。今、当局側からご発言があったんですけども、市長としての立場と行政の最高責任者としての立場とで何かぶつかることとかあるでしょうか。今東京都でいろいろ問題になっていますけれども、そういう観点から、こういうふうに市行政を持っていきたいがこういった障害があるので何らか変えていかなければいけない、あるいは小金井市の行政には非常にいいところがあるとか、日ごろ考えていらっしやるようなことがありましたら教えていただけませんか。

◎西岡市長 まず、多岐にわたる幅広い皆様方からのご意見をじっくり聞かせていただきました。ありがとうございました。

今のご質問ですが、私がふだん意識していることというのはたくさんありますし、私の体の半分は、市長ですから行政の長、もう半分は選挙で選ばれているという事実がありますから、市民代表という2つの立場をいつも大切にしながら行動しているつもりです。

行政の中に入って、まだ私も1年半ですが、小金井市役所といえども正職員の方々が691名、非常勤、臨職、再任用という方々を含めると300人ぐらいますから、合計1,000名の方々がお仕事をされています。1,000人というのは小金井市内最大の事業所です。小金井市役所というのが市内最大の事業所ですね。ですから、私が常々職員の方々に呼びかけて、こうあってほしいと思っているのは、小金井市内最大のサービス事業所であってほしいということや、これまでの考え方を改めていかなければいけない、意識改革しなければいけない部分があると思ひます。

それからもう一つ、市の役所であると同時に、「市民の役に立つ所」と書いて、小金井では市役所と呼べるように頑張っていこうよということをお呼びかけています。

ぶつかる場所ですね、今、録音機もあって議事録も作られているので、ちょっと慎重に発言をしなければいけません、当然のことながらあると思ひます。私が考えていることを素直に受け入れられない方もいるでしょうし、私自身が行政の長年培ってきた前例、慣習の中で思ひところもあります。私が常々申し上げているのは、継続すべきこと、見直すべきこと、やめること・廃止すること、それから新たに取り組むべきこと、この4つの物差しを持って自分の仕事、係も課も部も、長期的な視点を持って業務に当たっていただきたいということは常々申し上げておひます。

◎松本委員 お聞きしたかったのは、本審議会からは少し離れるのですが、提出メモの最後に

書かせて頂いた点です。先だって「小金井市行財政改革プラン2020」が出されたのですが、非常に論争的なプランなんですね。例えば、行政庁として作成したペーパーでありながら、その職員に対してやる気があるのかというふうな言及がなされています。普通だと、市民対市役所・行政という立場で考えて、当局の管理者側と職員との間の問題は、当然両者間で消化されるべき話ではないのかなと思うのですが、「2020」を見ると、そこが全然消化されないままに出されているということで、外部から眺めると非常に違和感を抱くんです。

これで3つのプランがそろったと思うんですけども、その中で、この「2020」は市長がご自身で手掛けられた最初のプランなので、それが今後どういうふうに消化されていくのか、ひいては、既にあります「小金井しあわせプラン」とか、「まち・ひと・しごとプラン」にどのように反映させられていくことになるのか、という点に関心があります。やはり相手とすべきは市民のはずなんです。だから、市民に対して市行政としてどういう風に向き合っていくのか、そのためには行政担当者とはどういう風に向き合っていくのか、ということは非常に大事な点だと思うものですから、ちょっと不躰ではありますが、質問をさせていただきました。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

時間がちょっと参りましたので、市長懇談という議題はこれで閉じさせていただきたいと思えます。よろしゅうございますか。

◎西岡市長 すみません、私が想定した以上に聞くことばかりが専門になってしまって、全然皆様方のご意見などに全くコメントしていないので、逆にこれでいいのかどうなのか、非常に申し訳ない思いでいっぱいですが、お時間ということなので、わかりました。

◎渡邊委員長 我々の意見をすくい取ってください。

◎西岡市長 わかりました。貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。私、まだ時間あるので、7時半までに農工大通りにたどり着ければ大丈夫なので、せっかくなので少し感想とか申し上げてもいいですかね。

◎渡邊委員長 お願いします。すみません。

◎西岡市長 ありがとうございました。小金井市は4キロ、4キロ、11平方キロに12万人ということで、自治体の規模からいいますと、私は非常にコンパクトで、いい、適正な規模ではないかと。中には100万人の政令市ですとか、中核市ですとか、30万都市とかいろいろありますが、12万人というのは、コミュニティーとか防災とか教育とか、そういうソフト面を考えると、私は適正な規模。しかも、東京の中心部にあり、自然環境も豊か。玉川上水が流れ、そして中央線という公共インフラ、輸送の大動脈が流れていると。残念ながら、特別快速はとまりませんけれども、始発もあって終電もある。しかも、高架線が完成いたしましたから、開かずの踏み切りも中央線からは全てなくなり、まちづくりも進み、今や羽田空港へのリムジンバスも導入されているということでございますので、小金井市は非常に立地条件も、地の利も、持っている財産もすばらしいまちだと思っております。

あと、本当に大切なことは、そこに住む方々の満足度がどれほど高い状態を維持し続けてい

けるのか。それから、この地域での本当にたくさんの課題にどうしっかり真摯に行政が向き合っているのかと思っています。

1つははっきりしていることは、行政だけで何もかも全てをやり切ることは不可能だと思っております。やはり協働精神や、防災なんかそうですよね。全部を行政と警察と消防と自衛隊だけではできないですね。もしも、ここに震度7が2回来るような大きな地震が来れば、皆様のもとに自衛隊が駆けつけられるはずもなく、基本的にはお一人お一人の市民の方々や、その地域のコミュニティーが命を守っていかなければいけないと思っておりますから、これからはそういう視点が非常に重要なので、渡邊先生がおっしゃったように、コミュニティー作りというものは本当にこれから大切な要素になってくるのかと思いました。

せっかくですから、一言ずつ私もコメントをさせていただきたいと思うんですが、鴨下さんのほうからは、イベントに参加する人と参加しない人との隔たりがあるのではないかと。あるかもしれませんね。もっと言えば、一生懸命仕事をしている人は地域どころじゃなくて、仕事が終わったらへとへとになって家に帰って休むだけ、土日もお休みという方が多分多いし。でも、そういった方が子どもが産まれて、何か社会のかかわり方が変わってくると、どんどん視点も変わってくると思うんですね。ですから、小金井市にはたくさんの選択肢や活躍できる場というのはいっぱいあると思っております。私が想像している以上に今、NPOとかサークルとか人の集まりとか集いとか、たくさんあるので、そういったことをマッチングしていくような市民協働センターみたいなものもこれから小金井市としては作っていきたいと思っております。

ただ、何かもしも声を発することができれば発したいと思っている方もいっぱいいらっしゃるみたいですよ。最近、市が行っているアンケート調査、無作為抽出みたいな感じで、いろんな方に送ると結構回収率が高いんです。また、無作為抽出でまちづくり協議会みたいな感じで、あなたが選ばれました、もしよかったら、小金井市政に対するご意見を言ってみませんかみたいなことで、青年会議所の方々が中心となってやっている事業というのがあります。とてもいろんな意見が出てきたので、行政としてはそういう場づくりをどうやって作っていくのかというのが大事かと思いました。

それから、橋田さんの国際交流の重要性は本当にあると思います。結構小金井市はあるんです。いろんなことをやっています。例えば、日本語スピーチコンテスト、留学生の方々を対象に、幅広い国の方々が来られて、傍聴者も40人ぐらいいらして、とても楽しそうでした。あるいは、お正月に留学生の方々に声をかけて、公民館のほうで日本の文化を体験する会とか、あとは小金井というのは武蔵野うどんという、昔からうどんが有名なんですよ。江戸時代から、そういった伝統があるんです。そういう昔ながらのうどんの作り方を、まだ保存している人たちがいるんです、中町のほうに。この方々が外国人の方のためのうどん作り教室というのを募集したら結構来られまして、皆さんとても楽しかったと。むしろ小金井の人たちが、それは私たちが知りたいとあって、日本人の方からの問い合わせがかなりあったというふうに思っております。これからもこういう機会を作っていきたいと思います。

共通して、今日は全く出なかったんですが、小金井市のたくさんの財産の中で、江戸東京たても園というのは、これは非常に価値の高いものだと思っております。先日、「T O K Y O 1 0 0」というスポットが発表されました。東京都交通局と民間の旅行会社が、都民が選ぶ自慢したい場所、行きたい場所、好きなところを報告して発表したんですね。小金井市からは何が選ばれるかな、いや、1 0 0 って意外と厳しいかな、何も入らないかなと思っておりましたから、江戸東京たても園が何と4 5位で入っていました。それ以外は入っていませんでしたね。たても園の価値というのは非常に大きくて、特にこれからオリンピック・パラリンピックが出てくると、大いに小金井市としては活用したいし、たくさんの方々に来てもらいたい場所です。

いろいろ私も聞いてみたり、実際、たても園に行って外国人の方々に話しかけるんですが、ヨーロッパの方々は歴史や文化が非常に好きな方が多いようですね。ですから、たても園を活用して、いろんなことがこれからもっともっとできるんじゃないかと。既にいろんなことが始まっていますけれども、小金井市としても、たても園の活用というのは大いにしていきたいと思っています。

それから、沼崎さんのご提案です。多摩信用金庫ということで地域連携支援ですけれども、まさにそういうまちおこしや活性化がお仕事なので、小金井市のポイントをよくわかっていたでいるので、本当に私どもとしては、一生懸命そういうご提案やご提起を実現していけるように頑張っていきたいと思っています。

私は施政方針でも書きましたけれども、K O - T O という起業支援のセンターが東小金井にある。それから、農工大学にも日本有数のインキュベーション施設、ベンチャーポートといって、バイオなどの先端技術を活用した起業家を支援する施設、2つもあるんです。これは非常に恵まれていると思います。

実際にK O - T O の1期生の方が、元超有名な大手企業の電機会社で働いていた方ですが、L E D を活用して、電解コンデンサーという部品が壊れてしまうので、L E D は本当は1 0 0年使えるはずなのに1 0年ぐらいで寿命が来ってしまう。その方は、1 0年寿命が延びたのではなくて1 0 0年延ばせるのだということで、会社をやめて、みずからK O - T O に来られて、起業して、そして商品開発をして、それを製品化して販売したという方が多摩信さんの賞をとられている、本当にありがとうございました。

この方は、ずっと小金井で頑張りたいとおっしゃっていただいています。小金井で起業して、3年間、いろんな苦勞をした方が成功されて、そして小金井で起業し、事務所を構え、成功したら六本木ヒルズに行かれてしまったのでは困るので、ずっと小金井で頑張りたい。そう考えると、起業支援とかベンチャーとかということを見ると、私は小金井市として小金井で残ってくださる企業の方々に何かインセンティブみたいなものというのは、これから大きな課題になってくると思っていますが、K O - T O とベンチャーポートはこれからも大事にしていきたいと思っています。

広域連携は実はかなりあるんですが、ちょっとPR不足の点があるので、私たちも大いに反省をしなければいけないと思っています。例えば、四市行政連絡協議会というのがあって、武蔵野、三鷹、小金井、西東京市は協定を結んでいまして、お互いの公共施設を有効に使えるような協定が実はあります。ほとんど知られていないですよ。あるいは、小金井市での大学も市民の方々はほとんど有効に活用ができます。そういったことも重要だと思っています。

ちょっと時間が迫ってきたので駆け足でいきます。

あと、小川先生からは、主に防災の点について、さまざまなご提言をいただきましてありがとうございました。防災というのはコミュニティーを作る1つのいい切り口になりますので、防災ということを大いに努力していきたいと思っています。最近、小金井市が意識しておりますのは、大学との連携を意識しております。昨年から農工大工学部で防災訓練をやって、学生さんたちにも参加してもらって、そんな取組もしております。それから、今年は東京学芸大学で防災訓練を行います。9月24日、青少年のための科学の祭典と防災訓練を同日開催することにいたしました。大学にとってもそのほうが利便性があるということや、防災訓練も比較的、町会、自治会、自主防災会など、わりとそういう組織に入っている方々が参加率が高いので、私たちとしては全員が対象でございますので、青少年のための科学の祭典に来た方で、せっかくだから防災訓練も出てみようという参加者を増やしたらいいなと思っています。

◎小川委員 科学の祭典は1万人ぐらい来ますからね。

◎西岡市長 1万人ぐらい、はい。相乗効果、ウインウインの取組をやったらいいなと思っております。

それから、松本先生からはたくさんのご提言をいただきまして、ありがとうございました。行革プラン2020は、私も市長に就任して1年半、一生懸命、職員の方々といろんな議論をしながら作り上げてきたものです。行革市民会議という方々は熱い思いもありまして、市民目線で作ろうということはかなりあえて意識しましたので、もちろん抵抗のあるような職員の方もいるかもしれませんが、でも市民の方々は、こういう視点で行革をやってほしいんだという思いを行革プランの中に盛り込ませていただきました。今までにない形で作らせていただいたと思います。

◎松本委員 そうですね、わかりました。

◎西岡市長 ただ、問題は実行と実践とPDCAだと思っておりますので、一生懸命頑張ってまいりたいと思っております。

それから、渡邊先生から学園都市宣言、渡邊先生とは私もカウントダウンなど、長い間おつき合いをさせていただいております。小金井の大学をもっと生かしてほしいという思いは従来からお聞かせいただきました。こういった形で学園都市宣言ということで、委員長みずからご提言いただいたことには感謝を申し上げます。ありがとうございます。もう、ここに書いてあることはそのとおりだと思っておりますので、頑張りたいと思っています。

私は、いつも常々、あるもの探しをしようよという言葉を使っています。小金井市にいつも

あるものというのは、私たちにとっては当たり前なので、その高い存在価値が薄らいでしまいます。しかし、他市から見ると、それがないまちから見ると、非常にうらやましいものであるんだと思います。まさに大学、高校がない地域からすれば、これほど小金井市が恵まれた地域であるということは、すごく存在価値の高いものだと思っていますので、せっかくある大学、高校も含めて、小金井は電機大とか、科学技術高校ですとか、非常にいい高校もあるし、都内最大の老舗の3,300名ものリハビリの先生を生み出しているリハビリ、理学療法士、作業療法士専門の社会医学技術学院が東小金井にはあります。これはすごいことです。また、78学科、そこに行けばあらゆる職業を目指せるという、幅の広さでいえば工学院というすばらしい専門学校もございます。こういった学校との連携というものを深めていきたいと思っています。

いろいろなことがスタートしています。武蔵野大学からは長期のインターン生が市役所に来てくれているたり、私は初めて東京学芸大学の教授の方に小金井市の教育委員になっていただきました。初めてのことであります。皆様方からこれからもいろんなご意見をいただきながら、小金井の未来作りに向けて一生懸命頑張ってまいりたいと思っています。今日は貴重なお時間をいただきまして、まことにありがとうございました。

◎渡邊委員長 どうもありがとうございました。

◎西岡市長 今後ともよろしく願いいたします。失礼します。

(西岡市長退席)

◎渡邊委員長 本当は1時間の予定でしたけれども、市長さんは大分いい会議だったと思われるので、20分もオーバーしてしまいました。

今日の議題の2番目で、これは本来の我々の仕事ですけれども、「小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」施策の効果検証ということで、前回大方やったわけですけれども、今回は評価シートのナンバー5、10、36と、これが追加になりまして、修正評価シートということで、ナンバー20、21という、これが今回の評価対象になったということでございます。

お手元の資料の3枚目でしょうか、評価シート番号の5というところから、前回と同じようにやらせていただきたいと思います。5の評価シートは、小金井市小売業の年間商品販売額(経済センサス活動調査)ということがキー・パフォーマンス・インデックス(インディケーター)、KPIになっております。昨年650億で、今年617.8億ということでございまして、CからDという行政の評価でございます。

いろんなコメントをいただきました。額にこだわる必要はないと思うとか、いろんなことがございまして、最終的に評価シートの一番右端のように、市内小売業が不振である要因を分析し、実態を踏まえた支援策を実施していただきたい。商工会や商店会等と協力し、小売業の質の向上や市民利用の促進、広報支援等、地域の掘り起こしにつながる事業に取り組んでいただきたいという格好で皆様のご意見を集約していただきました。

いかがですかね。650億から617億というのは、大きいんだか小さいんだかちょっとわ

からないんですけども、下がったことは事実だということで、行政、市としてはC評価からD評価に下げたと。下げたということは頑張るぞという裏返しかなと思うんですけども。これは、追加シートで今日初めて皆さん見られるシートかと思います。この内容でよろしいでしょうか。

評価シートの10番、これも追加シートで初めてかと思います。市民交流センターの有効区分数における貸出区分数の割合という指標でございます。これは、前年度86%、今年度85.7%ということで、ほぼ変わらないということで、しかも高いレベルで維持しているということで、今年度もA評価ということで、皆さん方の評価もAあるいは三角ということでございます。

いろんなご意見ありましたけれども、ここにございますように、高稼働率を維持しており、安定した運営を実施できている。特定の団体の既得権として優先使用にならないように留意し、引き続き取り組んでいただきたい。近隣施設との差別化を図るために特徴やブランド力の向上に引き続き取り組んでいただきたい。サービスの質の向上とあるが、具体的に何を実施し、どのような効果が期待できるのか、記載してほしいということで、サービスの質について、松本さんのコメントですかね、こういうことがここで表現されているということでございます。

いかがでしょうか。一応皆さんのご意見が反映されているんじゃないかなと思います。よろしゅうございますかね。ありがとうございました。

それでは、評価シートの36でございます。これは、高齢者いきいき活動講座延べ参加申込者数のうち、実際に講座に参加した者の延べ人数ということで、83%から76%ということで、昨年もB評価だったんですけども、今年はBからDということで下がっています。

皆さんの評価はそこそこだったと思うんですけども、いろんなご意見いただきまして、それをまとめたのが、高齢者いきいき活動講座は重要なイベントであり、高齢者のニーズの変化に対応し、利用者の満足度の充実を目指し取り組んでほしい。特定の利用者に偏ることなく、多くの高齢者が気軽に参加いただけるように取り組んでいただきたいという格好で皆さんのご意見をまとめてございます。

何かございますでしょうか。よろしゅうございますか。ありがとうございます。

次が修正評価シートで、前回もちょっとこれ見たんでしたっけ。

◎三浦企画政策課長 はい。20と21は文言の修正ということになります。

◎渡邊委員長 そうですね。ちょっとだけ変わったということで、評価シートの、これは推進委員会形式による放課後子ども教室開催件数ということでございまして、大方の方が丸、三角ですけども、前回の修正として、一番右側のアンダーラインの引いているところ、「市長部局と市教育委員会がさらなる」という文言に新たに修正されたということで、積極的な取組を評価したい。今後は議論の結果、生まれたよい取組が見える化し、広げていただきたい。引き続き情報交換を密に実施し、市長部局と市教育委員会がさらなる疎通を図れるように取り組んでほしいという修正でございます。よろしゅうございますね。

最後、21番です。これが先ほどもちょっと話題に出ましたけれども、学芸大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数ということでございます。C評価ということでございます。

私、渡邊が丸で、ほか三角とかバツでございまして、先ほどの議論で紹介しましたように、小川先生のほうから、大学の研究資料収集の場にならないように進めていただきたいというコメントもありまして、皆さんの意見をまとめて、どのような観点で、どのような取組が実施されているかを示してほしい。進捗が停滞している原因が不明であり、目標達成に向けたロードマップを提示してほしい。また、目標達成に向けて「大学側に」となっていた部分を「小・中学校側に」に修正し、過剰な負担が発生しないよう、互いのニーズを理解し、進めていただきたいという、これも皆さんのご意見ということでまとめられていると思うんですけれども、いかがですか。

今回、評価シートで我々の意見を、最終的に評価取りまとめ案という格好で提起されるということなんですけれども、こういう格好で事務局にまとめていただいたんですけれども、よろしゅうございますか。何か特にここを変えたほうがいいのかということがなければ、これでいかせていただきたいんですけれども、よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

そうしますと、「小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」施策の効果検証についてということで議題が終わりました。事務局のほうでこの件、何かコメントございますか。

◎三浦企画政策課長 次の議題で、次回の日程のところよろしいですか。

◎渡邊委員長 よろしいですか。わかりました。

◎松本委員 一寸報告したいことがあります、いいですか。

◎渡邊委員長 はい。

◎松本委員 検討項目が三十数項目あります。今日いただいた項目を除いたところで、去年の評価結果と今回の評価結果を比べてみました。丸が増えた、丸をつける人が増えたというのは、その項目については、委員が、いいな、頑張ってるなと評価していることになりますね。バツをつけたのが減ったというのも評価された方に入る。逆に丸が減ったとかバツが増えたとかというのは悪い方向に行っていると委員は見ているということになります。

そういう観点で眺めてみると、丸が増えたのは24項目、バツが減ったのが8項目で、合計32項目がよくなったという委員の評価。逆に丸が減ったのが3項目、バツが増えたのが6項目、9項目ありました。だから、全体としては圧倒的によくなったという評価がされていることがわかります。そこで今度は、委員の評価と市の担当者の評価を比較してみました。委員がよくなったと評価しているものに対しては責任者の方もよくなったと評価しているものが多いのは想定内ですが、委員が悪くなったと思っている項目に対して、市の責任者がよくなったという自己評価をされているのが数項目ありました。

例えば、「ボランティアセミナー参加」に市責任者はA評価です。「創造センター一定着率」

とか「ホームページアクセス数」にはB評価。何点かそういう項目があるので、それについてはもう少し市責任者の意見内容を吟味させてもらう必要があるのではないのかなというのが作業を終えての感想です。

◎渡邊委員長 わかりました。ありがとうございます。細かい分析ありがとうございました。

◎松本委員 表面的な分析作業で、あくまでもご参考までです。

◎渡邊委員長 市のほうで、もう少しそういう分析をして、何かの格好でお話しいただければと思っております。ありがとうございました。すみません、そこまで真面目に分析しませんでした。ありがとうございました。

◎渡邊委員長 それで、今日の議題の第3番目でよろしゅうございますか。次回の開催日程についてということで、事務局のほうから説明をお願いします。

◎三浦企画政策課長 それでは、事務局のほうからご説明を申し上げます。第3回の推進委員会の開催につきましては、事業の評価基準でございます数値の確定が予想されます9月ないし10月の初旬での開催をお願いしたいと考えてございます。また、今回に引き続き、市長との意見交換につきましても、お時間があれば行いたいと考えているところでございます。

ただし、現状につきましては、いつごろに東京都なりからの数値が確定するかわからないこと、それから9月は大変恐縮なのですが、定例会の開催期間中ということで、ちょっと私どものほうも日程調整がタイトな形になってございます。したがって、本日は9月から10月初旬の間ということでご理解賜りまして、日程調整につきましては後日行わせていただきたいと考えているところでございます。大変恐縮ですが、ご理解賜りますよう、よろしく願いいたします。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。いろいろな調整があるし、9月というのが市としてもいろんなイベントがあるということで、日にちはまだ確定できないと。ただ、9月の初旬ごろですか。

◎三浦企画政策課長 9月から10月の頭ぐらいまでに。

◎渡邊委員長 9月から10月の頭ぐらいの間で第3回の委員会を開きたいということで、よろしゅうございますね。また日程については、市のほうから連絡していただいて、可能な日を選んでいただくということでございます。

最後、その他ということでございますけれども、事務局のほうでその他の議題はありますか。

◎三浦企画政策課長 特にございません。

◎渡邊委員長 皆さんのほうで何かその他でございますか。よろしゅうございますか。

じゃあ、予定、まだ25分くらい余していますけれども、おなかもすいてきましたので、この辺で終わりにしたいと思いますけれども、よろしゅうございますか。じゃあ、終わります。ありがとうございました。

(午後7時30分閉会)